

嬉泉の新聞

嬉泉の新聞／第7号／1987年（昭和62年）5月25日発行／発行所＝社会福祉法人・嬉泉〔東京都世田谷区船橋1-30-9（〒156）TEL03-426-2323・千葉県君津郡袖ヶ浦町下新田1680（〒299-02）TEL0438-62-9121〕 発行人＝石井哲夫／編集人＝友田・明峯・須賀

ノーマリゼーションということ 仲村優一（放送大学教授・日本社会事業大学名誉教授）

ごく最近のこと、5年ぶりのスウェーデン、2年ぶりのイギリスを訪れ、彼地の社会福祉の姿の一端を垣間見てきた。その見学の感想を一言でいうと、「ノーマリゼーションとは、ノーマリゼーション！、ノーマリゼーション！と声高に叫ばないでも、ノーマライズ（常態化）していることなんだな」と実感したということである。

ストックホルム市郊外（といっても、都心部から車で30分弱のところ）、サンドビーバークにある精薄者のグループホーム。ごく普通の市営アパートの1階（1フラット、5室分、応接間とDK付）を、かなり重度の精薄青年男女5人が借りている。その中の1人は時々“てんかん発作”があって、かなり濃厚な介護を必要とする。

かれらは、日中は別々に共同作業所、デイセンター、授産所等に通い、お小遣い程度の報酬をえている。私どもが訪れたのは、ウィークデーの日中で、ホーム長と2人のパートの職員がいるだけで、5人の入居者（ということばが使われていたように思う）は、作業所に出かけて留守であった。

入居者たちの部屋を見せてもらったが、要するに、完全に個人の生活が保たれる個室であり、各部屋各様に（たとえば、カーテンや壁の色まで各人の好みによって異なるものが使われている。）しつらえられている。各部屋に郵便受けまでついている。各人の個別の主体性を最大限にまで重んずる処遇が考えら

れている。最高のケア付き住宅とでもいったらよいのであろうか。

日本の場合でこれに似た施設、またはホームにあたるものがあるだろうか、と考えてみた。私の見聞の限りでは、比較的新しい諸設備のよく整った軽費老人ホームがこれに近いかなと思った。利用料を払う利用施設としての自由さという点が特に際立った類似点であろう。しかし、こちらは身辺自立度の高い、ケアをほとんど必要としない老人の軽費の居住ホームである。すべての点で自由な「個別老人の生活の場」とはいかない何らかの不自由さが伴うのが普通である。

ところで、この園生たちの生活の基礎は、国の障害者年金であり、その額は日本の障害基礎年金（月額5万円強）の2倍程度。そのほかに住宅手当が出ている。従って、かれらは自分のふところに入る年金の中から、生活費をこのホームの利用料として払い、市営住宅としての住居費は住宅手当から支払われている。つまり、生活の基本部分を成り立たせる基盤が所得保障と住宅にあるのである。園生の親たちなどからの費用徴収などは一切行なわれていない。従って1人の重度精薄者の生活を、町の中で、ごく普通のノーマルな市民の生活に近づけて成り立たせるためには、とてつもない多額の公費がつきこまれていることになる。スウェーデン流の福祉国家は、こういう公費の使い方を国民の合意で認めているところに成り立つといえようか。日本で
(5頁下段に続く)

社会福祉の仕事をしている人が、「自分の仕事は誰でも出来る簡単な仕事」だと思っているかと聞かれたら、すぐに「否」と答えると思う。

では、「どんな人がやる仕事か」と聞かれたら、専門的な援助者という答が出てくるのである。

昔なら、犠牲的精神とか愛情などを掲げて、崇高な精神の持主でなければやれないなどと言っていた。そして、どんな人でも、社会福祉(昔は社会事業と言っていた)に携わってさえいれば、「本当に大変だが大事な仕事をしている」と無条件で尊敬されていたのである。

それが、時代も変わってしまい、今や80万人からの人たちが就労している労働市場となって、「ごくふつうの仕事」という感じに変わって来ているのである。

それでも、今尚、社会福祉事業に従事している人は、一般企業とは異って、社会から暖かな目で見られているようである。それは、一般企業から見ると厳しい就労であり、かつ、前号にも書いたように人間の生命を護り、それを発展させるために援助するという目的をもっているからである。

それだけに、社会福祉事業の内

側の課題としては、他の企業などと較べて、出来るだけ労働条件の差が出来ないように、少なくとも、最低線を上廻るように経営努力を行うというところであろう。ただ、今は昔と異なって、所轄の行政機関によって、労働基準法を守れるように、かつ公務員に準じた待遇が守られているので、法人としては、自己資金の範囲内で加算を計っていくだけなのである。

経営に関することは、いずれ改めて書くことにするが、ここでと

社会福祉の専門性

石井哲夫

りあげるとは、標題の「社会福祉の専門性」についてである。

「社会福祉の専門性」とは、具体的に対人福祉サービスの質を向上させることである。本人の場合、「自閉症児とか精神薄弱児」というような精神発達障害児に対する生活状況の改善と発達援助という目的をもって仕事をしているので、この目的を遂行するための専門性になる。そしてこの専門性は、実は社会福祉の専門性の中核に位置しているものと考えられる

のである。その理由をのべてみよう。

社会福祉という仕事の全てが、社会生活を正常に営んでいけない人たち(社会的な弱者と考えられる人たち)に対して、必要とされる援助を行うものであるから、まずその援助の内容が問題になるわけである。援助すべき問題としては経済的に貧しいことと、精神的、身体的自立が困難なことが主であり、その両者以外にも、残留孤児とか、国際的な救援のような社会

的な問題のからんでくるものも考えられる。

昔の社会事業は、主として救貧、防貧的な意味をもつものが主であり、個人的な人格問題は、障害児・者さえも、本人の責任として、その対策を本格的に考えようとしなかったようである。今日の社会福祉は、まず対象となる人たちにあって、人間としてよくなっているかということを考えようとするわけだ、つきつめていくと、本人しかわからないような精神的な問題

にまで手をさしのべていこうとするものである。

従って、誰もが型の如くきまった援助をするような仕事の仕方では十分といえない仕事が増えていくわけである。昔なら親の責任であるという問題が、今では、親の手に負えないから、専門家がこれを行うのだという考えも出て来ているわけである。社会福祉の専門職を定めようという動きが常に現れてくるのも時代の趨勢と言

うべきで、我々の「自閉症児療育事業」も極めて専門性の高い仕事なのである。

前述の如く、私はこの仕事の専門性は、社会福祉事業の最先端を行くものと思っているので、社会福祉教育や社会福祉の現場に常に、自分の実践の紹介を心がけているわけである。

では、その一部を紹介してこの文を擱えたい。

『社会福祉における対人援助は、まず対象者を人と観て、人と遇することであり、そのためには、その人の直面している社会的ハンディキャップの内容を究め、その人とかかわりの中で、かつ仕事の仕組みや社会資源との関係で、確実に効果的な援助方法を工夫し実践することなのである。』

私たちの

うぐわ

須藤福祉センター
各事業所
からの報告

「嬉泉の新聞」も創刊三年目に入り、今号から、新企画として、法人の各事業部門の活動を報告するシリーズを始めることにしました。現場の抱えこんでいる様々な問題、それを一つ一つ解決していくことができたときの喜び……これらを読みとっていただけたら、と考えています。

「とらのこ」と私

木村つま子

(子どもの生活研究所職員)

「子どものへや」は子どもの生活研究所にある0歳から6歳児までの未認可の保育所で、通称「とらのこ」と言います。この世で一番大切なものという意味で、石井所長が命名しました。私はこの言葉と「とらのこ」という職場が大好きです。

ある日、3歳以上児を「すこやか学園」へ送った後で、1・2歳児を集めて「お集り」をしました。「鹿」の絵を見せて「これなあに？」と聞くと、2歳の祐吾くんが大きな声で「キリンさん」と答えまし

た。「エ……ッ？」と聞き返すと、おかしいと思ったのか「おくびのみじかいキリンさんの!!」と大声で言い返しました。

天気の良い日は、よく公園へ遊びに行ったり電車を見に行きます。その途中で、建築中の家の前を通りました。真白に塗られた塀を見て、「あっ、ゆきみたい!!きれいだね」という2歳の野枝実ちゃん。こうした子どもたちの発想の奇抜さ、おもしろさ、そしてこんな子どもたちとのやりとりを楽しみ、笑いながら仕事のできる喜びを感じるのです。

食事の時、野菜をイヤイヤする2歳のN子ちゃんを見て、6歳に

なる裕くんがN子ちゃんの顔をみつけて、「食べなきゃ：ほら、お兄ちゃん達がみてるぞー笑っちゃうよ」と言ったら、バクバク食べたN子ちゃん。「先生、このビー玉赤ちゃんがお口に入れちゃうから持って」という紗生子ちゃん。折り紙がとってもまじょうずな6歳のれんちゃんの回りには、いつも小さい子が集まっています。一人一人に「何色が好き？お姉ちゃんが作ってあげるから待ってね」と、やさしく話して小さい子をイライラさせることなくお相手ができる「とらのこ」で一番のお姉さん。

0歳から6歳までの異年齢小集団の中での子ども同志の育ちあいが、とても素晴らしいなと思うのです。

一学期に一回、石井所長とお母様方とのお話し合いがあります。出席されたお母様から次のようなことが連絡帳に書かれてありました。

『周囲からのN子の



成長に対する熱いまなざしをひしと感じながらも、仕事を選んだ時のうしろめたさを思い浮べて、石井先生のお話しに耳を傾けました。ある所は確認し、ある所はこれからの道標となり、また、反省したり……よいお話しが聞けたと思います。父親との接触時間の短いN子はお父さんが大好きで、お父

さんもN子が大好きで、「やさしいお父さん」「よい子」とお互いに認めあっているようですが、私はいつも悪者のようです。「一日中娘と付合ってみなさい」という言い方で反論をしていましたが、これも母親の役得かとも思われませんでした。こっそりN子に「お母さんはいつもイケマセン!!」って言って「イヤねえ」と言ったら、「やさしいお母さん、大好きよ」と言ってくれました。」

連絡帳を通したお母様とのやり取りの中から、一人の人間として、将来母になるであろう一人の女性として、とても学ぶことが多いのです。

そして、「保育料のことを考えると公立保育所へ、とも考えるのですが、のびのびと育てているわが子を見ていると、このままとらのこにお願しようということになりました。」という話しを何人かのお母様方から聞き、喜びと励ましを感じています。

これからも「とらのこ」の中で、かわいい子ども達とのやりとりを楽しみ、子ども同志の育ちあいの素晴らしさを見つめ、お母様方との心暖まるふれあいを通して、多くのことを学んでいきたいと思っております。

ひかりの作業指導

の近況

金沢 信一

(袖ヶ浦ひかりの学園指導主任)
袖ヶ浦ひかりの学園では、昨年度の十二月頃から、従来の作業に更に木工を加えて、販売班、製パン班、機織班、陶芸・絵画班、木工班、ひかりの牧場班、家事班という内容の編成で作業指導を行っている。彼らがどの作業指導を受けるのか、ということは難しい問題である。それぞれの作業指導そのものがまだ生れてまもないわけで、そのコンセプトが十分に出来ていたわけではない。それは、創造的な段階とも言えるわけである。そこで各々の作業指導の担当者には柔軟で創造的な能力が求められる。

世の中に作業指導をやっている施設は多く、それらを参考にすることは可能である。だが、自閉症に対する受容的交流療法を旨とし、開拓者精神を重んじる我らの施設としては、それらに安易に飛びつくわけにはいかない。我らの伝統あるいは、アイデンティティに矛盾してはならない。つまり、私としては作業指導について、どのようなコンセプトを持ち、確立して

いくか、ということに苦慮した。治療的な作業指導を行うのか、作品を生産していくのか、力点はどちらに置かれるべきなのか、ということが不明確であった。そして、打合わせの場などで検討がなされた。様々な意見があった。我々の作業指導は治療教育的であるべきだという意見や、一方の自閉症施設である「あさけ学園」の入

園者を強力に作業に向けてしまう指導のことなどが印象に残っている。そうした中で私のコンセプトは宙に浮いていた。ヒントを与えてくれたのはチュンちゃんである。チュンちゃんはそれまでひかりの牧場で作業をしていた。ひかりの学園に入園した頃、チュンちゃんは不安定であった。ひかりの牧場に入った時もイライラして水の入った



ポリ・タンクを投げてしまうということがあった。それがのんびりと一輪車を押すという状態に変わってきた。だから、ひかりの牧場はチュンちゃんにとって意味があったと思う。しかし、当時のひかりの牧場はチュンちゃんにとってそこまでのもので、次第にマンネリとなり、停滞したと思う。

そこで陶芸に入れてみた。陶芸に於いて、チュンちゃんの造形的才能は少し開花した。チュンちゃんは粘土板に「クマちゃん」や「ブタちゃん」の押し

ひかりのタイムス

独立号

嬉泉の新聞が発行されて以来、「ひかりのタイムス」は、主として袖ヶ浦ひかりの学園あゆみグループに所属する人達に原稿を書いてもらい編集してまいりましたが、嬉泉の新聞も発行三年目を迎えて内容を刷新したいという考えがあり、また一方「あゆみグループ」でも、様々な形での社会参加へ向けての新しい活動を模索していて、この際「ひかりのタイムス」を全面的に「あゆみ」のメンバーに任せようということになりました。幸い彼等は、かつて「のびろタイムス」というミニコミ誌を出していた経験もあり、早速山岸君が編集長を引受けてくれました。彼等にとっては格別新しいことではないかも知れませんが、かつての「のびろタイムス」の時のように自分たちが書きたいことを書く、というだけではなく、自分たちで企画して編集方針を立て、広く原稿を求めながら作っていくという本格的な新聞づくりをめざしていきたいと考えております。どうぞご声援ください。

ひかりのタイムス、 頑張って！

森本 照雄

昭和五九年四月に袖ヶ浦ひかりの学園が開設され、園の人達の生活が始まった時、私はこの人達や職員達の生活の様子をできるだけ多くの人々に知って欲しいと思ひ、初代のひかりの新聞を発行しました。職業指導を受ける人達の特徴や、性格、趣味といったものを紹

介し、指導にあたる人達の個性や意欲を伝えようと思っていました。ところが、私自身の仕事も忙しく、この新聞は第四号までの発行で中断されてしまいました。当時はまだワープロを使いこなす技術もなく、ひたすら読みにくい手書きA三判の紙面を埋めていったのを覚えています。今は私もワープロを使えるようになり、先日来、昔のひかりの新聞を思出してはあのと きこんな機械があったらなど考え

ておりました。そんな時、あゆみ組の先生が新しいグループ活動を考えているのを知り、「新聞でも作ってみたら？」と何気なく提案したら、たちまちそういうことになってしまい、私も驚きつつも大変嬉しく思っている次第です。

新聞は記事を集めて作っていくものです。私の時は自分で見聞きしたものを記事にするという編集方針でやっていたのですが、これではともすると記事が主観的になりやすく、客観的な報道を旨とする新聞の精神にはなじまないと思われまます。だから、今度の新聞の記者さんから記事を依頼された時、今度は本当の新聞のようにやるんだなと感慨を新たにしました。

でも記事を依頼して集めるということは、結構大変なことで、書いてくれないければ催促しなければならぬし、しつこく催促すればいやがられるし、かねあいがとても微妙で難しいと思うのです。きっと記者さん達には、人間関係の在り方のよい勉強になると思ひます。新聞は、ある欄はそれを自己主張の場としてもよいのだし、いろいろ勉強ができるとてもよい場です。頑張ってください。

（袖ヶ浦ひかりの学園園長）

「Y子のこと」

川相 智史

Y子に言葉はない。要求が通じない時、仰向けのY子は手足をバタバタさせて泣き叫ぶ。ちょっとした物音にも敏感で、すぐ泣く。午後のうとうとした時間、飛行機の遠い爆音に身をふるわせる。でも、これはボーイング747だの、DC10だのというエンジン音聞き分けの特技までには至ってないよ。うすだ。回りにあるものを手当たり次第に口にされる。紐が好きで、一本の紐でいつまでも遊んでいる。時々首を左右に大きく振り、その感覚に浸っているような素振りもある。私の顔をみると、「ブーッ」と唇をふるわせ、唾を撒き散らす。音楽を大変好み、大泣きの時、ジョージ・ウィンストンの「デッセンバー」を聞くとすぐに泣きやむ。逆に、レコードの片面が終わり、音が途切れると、また泣いてしまふ。シンディー・ローパーも好みの一人だ。あのリズムがいいらしい。イチゴとのびるパンが大の好物で、嫌いなものは床に投げつける。……苦笑い。

Y子は昼となく、夜となく泣く。Y子には分らないことが多い。しかし、明らかにある意志をもって

生きていく。あるいは、生きようとしていく。Y子を理解することから始め、少しの手助けと小言でもって、生を全うすることの手伝いをしたいと思っている。これはY子にかぎったことではないが。

Y子、C A、九ヶ月。M A、たぶん九ヶ月。

(袖ヶ浦のびる学園職員)

婚約した現在の心境について

岩崎 正美

ウーム、なかなかむずかしいテーマである。ひかりのタイムスが独立するので、書いてほしいと裕さんより頼まれ、それは光栄なことだと思ひ、思わず引受けてしまったが、いざ書こうとするとなかなかペンが進まない。

そもそも、自分のことを語るといふのは、なかなかむずかしいものである。現代社会に生きる人々は、高度に発達した情報網の中で、誰でも「評論家」としての側面を持つていくように思う。そして、「評論家」になるのは非常にたやすいことである。なぜならば、その対象となるのは、あくまでも他人の事だからである。直接自分に関係のない事であるからこそ、自由に好き勝手なことを言うことが

出来、またその内容が、論理的かつ緻密であることも可能となる。

しかし、ひとたびその対象が自分のこととなると、なかなかそうはいかない。よく面接試験などにおいて、自己PRをすることを要求される場合がある。そのような時に、自分の欠点について述べることは比較的たやすいが、長所について論理的かつ積極的にPRするということになれば、それは至難の業である。このように、自分の人について語るのが、こんなにむずかしいのであるから、自分のプライベートな部分が二倍となる出来事”について語るのがたやすいはずはない。

しかし、なかなかむずかしいとは言いがた、人からいろいろと質問されると、思わずニコニコしながら話してしまうというのが、この「出来事”について語る場合の大きな特徴である。だから思わず書いてしまうことにする。婚約した現在の心境、それは幸福の一言につきまますね。(失礼しました。)

(袖ヶ浦のびる学園職員)

この二・三年のこと

村岡 敦

ぼくが、ひかりのに、入園してから三年ほどです。

始めは、のびろに入園した時は、昭和五三年ごろであった。そして、五九年春、ひかりの入園です。その時は、先生は青年部(あゆみ)は浜中さん田川さん浜田さんでした。六〇年田川さん浜田さんは退職で加藤さん石山さんなどがたんとしました。パン売りはこの年の二学期からです。前はやきいも販売もしていたが、パン販売の方が楽しいです。この時は杉山先生が、パン売り、たんとうで、去年の、九月まで、やっていた。さて、青年部には、戸屋先生、友田先生が六一年四月から、たんとうしている。あと去年の、思い出は、ミュージカルを見に行きました。販売部の人たち田中君、小松君、山岸君、あと小原君もいました。五月一四日(水)東京の青山げき場

を見た。あとは、ポトタワーへ行った。天気が、わるかった。パン販売では、袋につめるのをしています。木よう日、火よう日は、主ふの店で売ります。だいたいい売れる時が多い。それから金よう日は、子供の生活研きゅう所まで、ファーゴという、ワゴン車で行く。東京でもよく売れます。それから、石田さんと言う人の所(横浜)まで売りに行く事が有ります。(月一回)でも、ぼくはそ

の時、体の調子が、わるくなってしまう事が有る。あと、道路がこんで、予定に着かない事も有ります。最近では、だいたいは、毎日パン販売に行きます。あと、休んでいる週でも、東京販売の時は子研に行きます。パン販売は、これからもやります。

(袖ヶ浦ひかりの学園在園生)

《編集後記》

私が編集長をやらせていただく事になりました、「やまあるきゆたか」(ひかりの学園園生・山岸裕)です。

従来のひかりのタイムスは、嬉泉の新聞第二部の形をとってまいりましたが、のれんを分けて、商店として、営業することになりました。相談役・顧問の友田氏に、かつがれてみこしの上にノット飾り、それが私です。

編集方針は、本学園の日常の息使いが伝わるようにしたい。果たしてそのとおりに、うまく仕掛人の狙いどおりに行きますか? 何がおこるか、箱のフタを開けてみてみなきゃわかりません。

読者の皆様、こなたたち(私の造語で、体つきは大人だが、心は子どもという意味)のつたない文章に寛容な愛の手と思ひやりをさしのべてください!!

絵のようなものを作った。こちらがチュンちゃんの作品作りのテーマ、目標を作ることの援助をする。つまり、今日は「クマちゃん」を作ります、ということをごちらとのやりとりで決定する。そのテーマをイメージ化する過程はチュンちゃんが自分で行うことが出来る。つまり、それが造形的なプロセスである。それが、チュンちゃんの興味を持っていることであると同時に、我々にも可愛らしさとか美しさのイメージを訴える力を持つものなのである。チュンちゃんがこのイメージをより良い作品として定着させていくためには、我々のもうひとひねりが必要である。チュンちゃんの陶芸作業が成立するためには、陶芸指導での状態だけではなく、チュンちゃんが生活しているやすらぎ組での状態が、陶芸指導を受けても悪くならない、ということが必要である。チュンちゃんからしてみれば、今までにない新しいことをするわけである。チュンちゃんが陶芸指導を受けることによつて無理な負担が生ずるのであれば、その無理が生活上の問題行動として出てくる。そうであるとするならば、陶芸でいくつ良い物をこしらえたからといって、その指導は失敗である。

ところが、それからのチュンちゃんの生活については良い報告が続いたのだ。いつものろのろと歩いてきた散歩が、陶芸後には大変はつらつと歩いてきた。道でおしっこをしなかった。こだわることが少なくなり、生活上悪い変化はない、という報告がやすらぎ組の先生から得られた。この時は陶芸の担当者だけではなく、やすらぎ組の担当者も一体化してチュンちゃんが陶芸指導にうまく適応するように大変気を使っていた。チュンちゃんの陶芸がその後にも順調に展開されてきているわけではない。チュンちゃんの可愛いイメージをより良い作品に結実させなければならぬ。現在は、その点で担当者にもチュンちゃん自身にも多少の行詰まりがあると思う。このケースでチュンちゃんも満足を得て、才能が引出され、作品も良い物が産み出され、生活もより安定する理想が一時的に実現した。作業と生活、生産中心の(作品中心の)考え方と治療中心の考え方という対立するかに思われたことが、矛盾なく統合されることを私はいま見ることが出来るように思う。

このような例が幾つかある。K君の耕運機操作、M君のすのこ

作り、T君のかんなかけ、他にもあるかもしれない。こうした隠れていた能力の芽生えに遭遇すると

大きな感動に満たされる。この仕事の醍醐味の一つであろうと思う。

は夢の又夢というところである。冒頭のところに戻る。私どもが近來「ノーマライゼーション」とか「ノーマライゼーション」という横文字を使って表現しようとしているものの実体が、スウェーデンをはじめ、北欧の諸国では、以上の如きレベルで既に実現しているといえそうである。ところが、私どもの今回のスウェーデン視察のプログラムの中で出合った先方の福祉関係者の口からは、一言も「ノーマライゼーション」なる言葉が発せられなかったのである。わざわざ、今更それを強調するまでのことはあるまい、とでもいうように。(なかむら ゆういち・法人理事)

嬉泉日録

- 一九八六年 10月26日 第二十二回嬉泉バザー
- 12月23日 29日 育心会主催冬期合宿(研修)
- 一九八七年 1月17日 18日 職員新年会
- 2月13日 15日 自閉症児治療教育実践講座
- (於袖ヶ浦。伊東 博氏 石井所長らの講義、指導実践)
- 3月1日 第9回嬉泉祭りバザー
- 4月1日 5日 新職員研修・まとめ合宿
- 4月9日 袖ヶ浦のびる・ひかりの学園新年度開始

第4回 自閉症治療教育セミナー

- 日時 昭和62年 8月17日(月)～ 8月19日(水)
- 会場 野口英世記念館講堂
(JR千駄谷駅 徒歩5分)
- 主催 社会福祉法人 嬉 泉
- その他 詳細はお問い合わせください。
リーフレットをお届けいたします。

第九回嬉泉祭りバザー
ご報告とお礼

去る三月一日(日)に開催いたしました「第九回嬉泉祭りバザー」は、お陰さまで無事終了することができました。収益の計算も整いましたので、ここにご報告方々お礼を申し上げます。

当日は幸いにも好天に恵まれ、学園の敷地も埋らんばかりの沢山のお客様にご来園いただき、大盛況の内にバザーを催すことができました。

収益は以下の通りで、昨年の実績を大幅に上回ることができました。これもひとえに皆様のご協力の賜ものと一同深く感謝申し上げます。この収益は子ども達の生活と療育の向上のため役立たせていただきます。

部門	金額(円)
総務(地域交流)	586,950
献品	709,649
手芸	271,380
子どもコーナー	199,510
食堂	421,254
広報	33,691
委託	131,890
おぼけやしき	72,880
計	2,427,204

以下は、今回の「嬉泉祭りバザー」にご協力いただいた方々のお名前です。本当に有難うございました。(敬称略、順不同)

《袖ヶ浦町》

- 袖ヶ浦町長吉堀慶一郎 袖ヶ浦福祉センター・長浦授産所
- いの木養護学校 袖ヶ浦町社会福祉協議会 佐野医院 長浦駅 根形郵便局 桐谷信雄
- 袖ヶ浦興産(株) 野田老人クラブ 袖ヶ浦町水道業務管理者 尾高信人 黒川孝男 石井政雄
- 小野義昌 星野一郎 フルヤ牛乳 大橋屋 主婦の店のぞみ野店 渡辺魚店 鈴富精肉店 サクヤマミート 弁天丸商店 東京電力労組千葉火力総支部 島田信介 鈴木春男 神野幸男 平野廣一 柏木優夫 シマムラ書店 鳥海商店 大森伊都枝 鍋島金物店 シマムラ文具 君津信用組合 根形自動車 ブックセンタータカヨシ 関和雄 ビバホーム 水野恭治 大袖興業(株) 須崎政夫 大幸建設 日本生命保険会社 大木均 繁昌屋 テスカバーバー 神崎英子 木更津信用金庫 袖ヶ浦農協本店・根形支店・長浦支店・昭和支店 黒木明徳 不二亭 保

- 坂石油 長浦屋 保田康也
- 神崎清子 フォトイマゼキ
- のんき 千葉三菱ふそう 三育フーズ 高木利武 永原睦子・郁子 堤橋元子 市原山本 袖ヶ浦駅 横田駅 蔵波郵便局 袖ヶ浦郵便局 千葉銀行 千葉興業銀行 千葉相互銀行 さつき台病院 袖ヶ浦病院 田中病院 スーパーマルエツ 成松薬局 スカイラーク すえひろ5 サロール キッチン 赤とんぼ しまむら 若菜ずし いその文具 ナカヤ文具 やまちゅう すみ吉そば スーパーしんめい セントラルマー ト 一龍 いの書店 小僧 ずし コスモ石油蔵波スタンド 渡辺石油 主婦の店さつき台店・福王台店 ポピンズ 友愛 ほしの 長浦公民館 和田時計店 根形小学校 根形中学校 長浦小学校 長浦中学校 蔵波小学校 昭和中学校 袖ヶ浦高校 根形保育園 渡辺ケ浦高校 関東新聞販売 袖ヶ浦老人福祉会館 袖ヶ浦町広報 下野田区 三ツ作区 大曾根区 勝区 野田区 橋東区 のぞみ野区 蔵波県営住宅自治会 長浦駅前町内会一八丁目

県営団地 東京ガス(株)袖ヶ浦工場・労働組合袖ヶ浦支部・社宅自治会

《木更津市》

- 堀井隆 古山三郎 鈴木武雄 マサキ商会 内田屋 クラヤ薬品 共栄海運 飯田幸男 房総ヤクルト木更津店 東京電力労組木更津工務支部 君津木更津地区同盟 文明商事 アサフナシヨク 丸直 日本橋食品 ブラジル屋 オラン グ屋 インターパック 木更津駅 早石インテリア 房総ファミリア
- 《君津市・富津市》
- 寺田和美 平野木工所 菅原英子 スーパー三田
- 《市原市》
- 古川皮膚科クリニック
- 《千葉市》
- (株)トレンツ ビンゴー(株) (株)リーバース 北沢靴店 NHK千葉 千葉テレビ
- 《東京》
- 田中貴美子 石田 犬伏成子 F I L C O 大竹光枝 世田谷よつば会 (株)マルティース 松園俊郎 ローヤルハム(株) アトリエ弓 日本スタンドサービス(株) 小椋純子